



これまでにお伝えしてきた町の公共施設を取り巻く課題を踏まえ、「毛呂山町公共施設等総合管理計画」では以下の基本原則を設定しました。

公共施設の管理・運営に関する基本原則

未来のために 公共施設を考えよう

公共施設等総合管理計画

問合せ
役場企画財政課企画係
☎ 049 (295) 2112 ㊟ 323

①施設保有量の適正化

- 原則として、量的拡大を伴う単独施設の新規整備は行わないものとします。
- 今後の財政状況、人口減少社会を見据えて、規模縮小、廃止、統合、複合化等により施設保有量の適正化を図ります。
- 具体的な数値目標を掲げ、保有量の適正化の取組を推進します。

②既存施設の有効活用

- 予防保全型の維持管理などによる長寿命化を推進し、更新等費用の抑制・平準化を図ります。
- 低・未利用施設については、需要に応じた用途変更などにより、有効活用を図ります。

③効率的・効果的な運営

- 民間活力を導入するなど、維持管理・運営にかかるコストの縮減やサービスの質の向上のための手法などを検討し、効率的・効果的な運営を図ります。

公共施設の保有量の目標

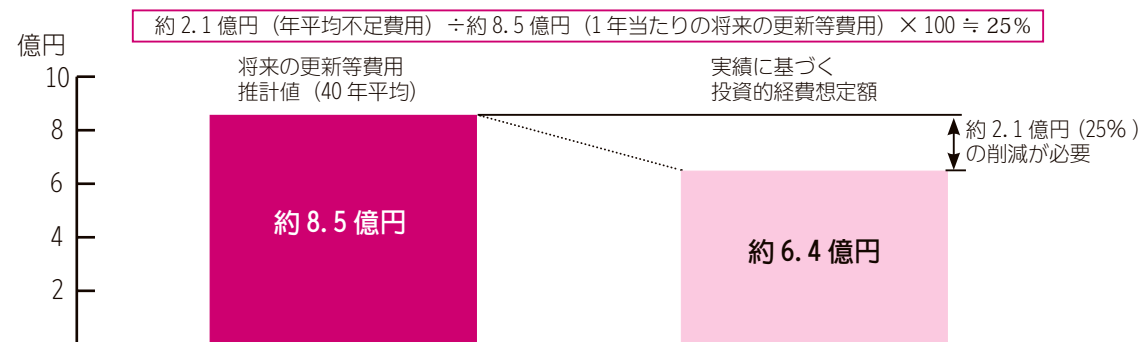
基本原則の「①施設保有量の適正化」の中で数値目標に関する記述があります。試算結果では、今後の公共施設の更新や維持管理に必要な費用が十分に確保できる見込みが立ちません。施設運営に係る費用の削減と併せて、建物の総量を抑制し経費を抑える必要もあ

ります。
現在、町が公共施設にかけている経費から換算し、今後の削減目標について次のように設定しました。

公共施設の保有量（延床面積）を今後40年間で25%削減

どの施設を残し、どの施設を廃止にするか。将来にわたって持続的なサービスの提供、公共施設の管理、運営ができるよう、本当に必要な施設を選択していく勇気が求められています。

削減目標のイメージ図



※将来の更新等費用は、1年当たり約8.5億円がかかる見通しです。投資的経費想定額は約6.4億円であるため、年間で約2.1億円を削減する必要があります。投資的経費想定額の約6.4億円以内に収めるためには、将来の更新等費用を25%程度削減する必要があります。

今月号の内容を踏まえ、次号では公共施設をどのように管理、運営を行っていくか、その実施方針についてお伝えします。

町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	12/12(火)、25(月)	13:30 ～ 16:00	役場会議室	役場総務課☎☎313（要予約）
	行政書士	12/20(水)	10:00 ～ 15:00	役場会議室	役場総務課☎☎313
人権・行政相談		12/14(木)	13:30 ～ 16:00	役場会議室	役場総務課☎☎313
入間西障害者相談支援センター出張相談会		奇数月の第一水曜日	10:00 ～ 12:00	役場相談室	役場福祉課☎☎116・117 FAX 049(295)2126
成人健康相談		12/4(月)	9:30 ～ 11:30	役場町民ホール	保健センター☎049(294)5511
電話健康相談		平日	9:00 ～ 17:00	保健センター☎049(294)5511	
ものの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00 ～ 12:00	中央公民館	地域包括支援センター☎049(295)2112☎156・157
子育て相談 なんでも話してみよう		12/8(金) 12/22(金)	10:00 ～ 11:00	役場相談室 子育て支援センター	子育て支援センター☎049(294)4820
教育相談		平日	10:00 ～ 16:30	教育センター☎049(295)2525（電話相談可）	
心配ごと相談		毎週水曜日	10:00 ～ 12:00	社会福祉協議会（ウィズもろやま内）☎049(295)3111	
消費生活相談		毎週火曜日	10:00 ～ 15:00	役場相談室	役場産業振興課☎☎214
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30 ～ 17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所（ウィズもろやま内）☎080-2274-1445	

歴史散歩

第282回

絵馬に見る人々の願い

神社に参拝した際、私たちは神様に願い事をし、その願いを絵馬として奉納することがあります。近年では、トマトを象ったものが登場するなど千差万別の様相をもつ絵馬ですが、絵馬を調べていくと奉納した人々が込めた願いの一端を読み解くことが出来ます。

毛呂山町には、数は多くありませんが江戸時代後期から明治時代にかけての様々な絵馬が神社やお寺に伝わっています。

絵馬には、大きさが15〜20cmほどの「小絵馬」と50cmから1mを超すような大型で絵画の額のような縁をもつ「大絵馬」があります。

大絵馬は、動植物や武者、故事を基にしたモチーフが多く描かれますが、なかには生業の風景や歴史的な出来事の様子を描いたものもあります。

平山地区の古宮神社には、山から切り出した木を材木に加工し、荷車で運び出す様子を描いた「木挽き絵馬」が奉納されています。商売の発展を祈念し奉納されたものと考えられますが、材木産地であった外秩父山地周辺の神社に

奉納されていることは、絵馬と生業の結びつきをあらわしているといえます。

市場地区の市場神社には、日清戦争に従軍した人々が奉納した戦勝凱旋の絵馬や電信隊の活躍を描いた絵馬などが残されています。近代国家として歩み始めた日本が初めて外国と本格的な戦争を行った日清戦争は、出兵した兵士たちにとってこれまで経験したことのない出来事でした。そのため、戦争に勝利して帰国した兵士たちは、戦地での活躍を描いた絵馬や部隊で撮影した写真などを神社に奉納し、神への報告と武運に対する感謝を表しました。

歴史民俗資料館では、現在江戸時代から明治時代にかけての絵馬から人々の願いを紐解く企画展「毛呂山に伝わる絵馬」を開催しています。絵画としての絵馬の魅力とともに、近代を生きた人々の「願い」に是非ふれてみてください。



木挽き絵馬
(平山地区 古宮神社)